研究ノート

保護者につなぐカリキュラム

国広勝代*1　西本佳代*2

キーワード：幼稚園、カリキュラム、人的環境、指導法、園だより

1　はじめに

幼稚園に勤務していたころ、園だよりを発行するにあたって次のようなことを考えた。

- 幼稚園の教育方針を保護者に伝えたい。
- 人的環境としての親と教師が幼児教育の一つの方向性を見出したい。
- 親と教師、地域が協力して幼児の教育にあたるために教育内容を共有したい。

そこで、月１回のペースで発行する園だより[1)]にカリキュラムを載せ、幼稚園で実践する教育内容の共通理解を得ようと試みた。

2　「風だより」の発行

紙面はＢ４横書で、冒頭の4～5行には、幼稚園教員の教育観や保育の姿勢を述べ、保護者に協力を呼びかけている。

カリキュラム表では、まず園全体における今月の音楽、行事という欄をとり、次に年少組（３歳児クラス）・年中組（４歳児クラス）・年長組（５歳児クラス）に分けて、ねらいと内容、主な活動、今月のインプット（音楽・歌・絵本・詩・生活指導）を列挙している。

夏休み中（８月）を除いて年間11回、筆者が副園長の職にいた４年間でVOL.44まで発刊した。

3　「風だより」に示された教育観

前述のように、冒頭の4～5行には幼稚園教員の教育観や保育の姿勢を述べ、保護者に協力を呼びかけているが、１年分（VOL.1～11）を紹介すると次のような言葉である。

VOL.1

幼稚園では、環境による教育を重要視しています。新しい環境の中でそれぞれの子どもが気に入ったものと出会い、その子に合った場所を見つけて遊べるように配慮していますが、その環境の中で最も影響力のあるのは、人的環境（親や教師）であると言えます。

今年度より幼稚園の教育内容について毎月「風だより」を発行いたしますので、ご家庭の方もお子様の言動に関心をもって長い目で温かく見守ってあげてください。周囲の大人が協力して、ひとりひとりのお子様が健やかに、しかも心豊かに成長されるよう援助していこうではありませんか。

VOL.2

幼稚園は、子どもがいろいろなことを学ぶ場です。させられるのではなく自主的に学ぶことが大切です。大人が決めたことをさせるだけでは、子どもが本当にやるところ、できるところが見えません。自由な活動の時間は、特にひとりひとりのお子様の“育ち”に目を向けています。

集団生活の中で子どもは仲良くしたり、けんかしたり喜怒哀楽に満ちています。一人の人間として友達関係のトラブルで悩むこともあるでしょう。そんなことを通して少しずつたくましい心も養われます。周囲の大人がしっかり支えてあげましょう。

VOL.3

子どもたちには雨の日だってとても楽しい日です。濡れて光っている道、葉っぱのかげでみつけたかたつむり、木の枝にきれいに並んでいる水滴、水玉できれいに着飾ったクモの巣、でも何といってもいちばんお

*1　山口福祉文化大学　ライフデザイン学部
*2　香川大学　教育・学生支援機構

もしろいことは長靴をはいて水たまりの中にバシャバシャと入ることです。こんな時せっかく示した子どもの興味や関心を「そんなつまらないこと」などと否定しないで興味や関心をもった喜びをまず味わわせることが大切です。それが旺盛な生活意識と学習意欲へとつながっていきます。

子どもの価値観を大切にしながら生活指導もしなくてはならないし、ほんとうに子育ては大変ですね。

VOL.4

七夕祭りは、とても不思議な感じのする楽しい行事です。月や星という、そこに存在していること自体がとても不思議なものたちのための祭りなのですから、ことさら神秘的な気持ちになるのでしょうか。とりどりの色や形の飾りを笹の葉に結んでいく作業もとても楽しいものです。とりわけ、子どもにとっての“魔法の時間”は、たんざくに願い事を書いて笹の葉に結びつける時です。そして、一年に一度、彦星と織姫が出会うという話に、はるか遠い宇宙のかなたに想像をめぐらせるのです。

子どもたちは、こんな物語の世界をとても楽しみます。そして、想像の世界に遊ぶことで、心の中に勇気や優しさや意欲を育てていきます。だから子どもは前向き、そして“あした”が好き。どうか、お子様にたくさんのお話の世界を体験させてあげてください。

VOL.5

長い休みが終わりましたが、夏休みというと一番はじめに頭に浮かぶのは、子どもたちが手に持った花火の光をみつめる夢のようなまなざしです。暗いなかで小さな花火の光に顔を照らし出され、じっと手の先を見つめている。夢見るようなまじめな表情。きらきら輝く瞳で見つめているのは、ただ花火の光というよりもそのずっと先のどこか遠い「向こう側」の世界のようにも思えますし、あるいは自分自身の内側のずっと「奥」の世界というような気もします。

毎日のお母さんが作る食事、お父さんやお母さんが昔読んで好きだった絵本や子どもの頃覚えた歌を知ること、おじいちゃん・おばあちゃんの昔語り、大きい子が教えてくれる遊び、そんな細々としたことが、いつの間にか世代から世代へと伝えられていって、ひとりひとりの子どもの「内側の世界」になっていくのかもしれません。あの花火を見つめるまなざしの深さもこんなところから生まれてくるのではないでしょうか。

VOL.6

最近、けなげな子どもというような言葉をあまり聞かなくなりました。まわりの人の立場や気持ちがよくわかって、なにか頼みたいことがあってもじっと我慢したり、親が忙しそうだったら黙って手伝いをするなどということは、かえって素直ではなく、子どもらしくないと思われてしまう社会なのでしょうか。

子どもたちが恵まれて、健やかに育つことは、すばらしいことですが、あまり恵まれすぎて「けなげさ」を失うのは淋しいことです。ものに恵まれるのはよいのですが、“こころ”が貧しくならないよう親と子、先生と子ども、大人同士、子ども同士、相手にこころをつかい合うかかわりを大切にしましょう。

VOL.7

空気が冷たくなってくると、何となく空気も澄んできます。特に夕方になり夜になると、シンと冷えた空気が辺りの音まで吸収してしまう気がします。そんなときの夜の風景、中でも気になるのは信号待ちをしている視界の片隅でちょこんと光る信号機。青緑色の光が黄色に移り、ふっと赤にバトンタッチ。信号の色が変わるだけで、わずかではあるけれど確実に夜の風景も音を変える、そんな気がするのです。

テーブルクロスの色を変えただけで部屋の空気が変わってしまうようにちょっとした部屋の中の色でさえ私たちの生活に少なからず影響があります。子どもたちにとっては、お母さんのちょっとした表情の変化が、とても重大な影響を及ぼすかもしれません。子どもは、お母さんの笑顔が大好きです。

VOL.8

何かが「できる」「できない」ということでは、子ど

もたちは、大人に比べて「できない」ことがずっと多いのは事実です。しかし、大人が絶対かなわないのが「可愛らしさ」です。もちろん、可愛らしさというのは数字で計ることもできないし、客観的に評価することもできません。勝ち負け・優劣・損得といったこととも、すべて無関係です。とはいっても、子どもたちの天衣無縫な仕草や一点の曇りのない笑顔は、大人がどんなに頑張ってもとても真似できない“可愛さ”だということには、きっと誰も異論はないでしょう。客観的に評価することができないということは、誰が誰にとってどんなふうに可愛いかということが、ひとにより相手によって違うということでもあると思います。どの子どもにもひとりひとりその子なりの可愛らしさというものがあるはずです。言葉を換えればその子ども自身の最もしぜんな姿、あるいはその子の「自分らしさ」の表現といいますか、つまり、そうした可愛らしさの中にこそ、その子の本当のかけがえのなさが最もよく表れているのではないでしょうか。

VOL9

新しい年を迎えましたが、羽根つき、こままわし、かるたとり、すごろく、福笑い、凧あげなどお正月の遊びをお子様とご一緒に楽しまれましたでしょうか。日本は、四季のある大変美しい国です。その四季とともにあるのがいろいろな行事です。近年、伝統的な行事や習慣がだんだんなくなる傾向にありますが、それは“日本人のこころ”を失うことにもつながることでしょう。日本のよさを次代に伝えることは我々の大切な仕事です。

幼児期に重要なことは、どんなことを教えるかではなく、どんな体験をさせるかについて考えてあげるのが大人の責任のような気がします。この辺で今一度、日本の行事、ふるさとの行事、家庭の行事や習慣を見直してみましょう。家庭や幼稚園での幼児体験は、その子の一生が豊かになるかどうかを左右することを心して毎日を生活したいものです。そんな生活の中で、お年寄りも子どももそれぞれのよさが発揮でき、認め合えたらいいですね。

VOL.10

幼稚園でお弁当を温めるようになって、とてもいい話を聞きました。ご兄妹のアルミのお弁当箱がそれぞれに、お兄ちゃんはお父さんから、妹さんはお母さんからのお譲りだそうです。お母さんは、お弁当を詰めながら“自分の母親もこんな気持ちでお弁当をつくってくれたのかなあ”と思いを馳せたそうです。

園では「園文化」を身につけ、近所の友だちなかまでは「子ども文化」を身につける子どもたち。でも、そういう子どもたちも、どこかでそれぞれの家のそれぞれの「家文化」に親しむ時があってもいいですね。「家文化」といっても大袈裟なことではありません。第一に毎日のお母さんがつくる食事が、最大の「家文化」の一つでしょう。でも、そのほかにも、たとえば、お父さんやお母さんが昔読んで好きだった絵本だとか子どもの頃使ったものだとかを見せてあげるとか。何でもいいと思います。忙しい毎日だとは思いますが、お母さんは気持ちにゆとりをもって、自分の子どもが「家文化」に浸ることができるように心がけてみてはいかがでしょうか。今が大切です。未来のために・・・。

VOL.11

日毎に、大きく、たくましく成長していく子どもを見ているのは、家族にとって、とてもうれしく誇らしいことですね。先日の“ゆうぎ会”もそれぞれの年齢でいろいろな姿を見せてくれました。幼児の生活からすると発表会は結果ではなく、活動の過程なのです。その日うまくいかなくても全く気にしていません。それよりも明日の方が大切なのです。家族にほめてもらった子どもは、ひとつの自信を得たことでしょう。結果を判断するのではなく、取り組んだ過程や態度を認めてあげれば、きっと次へのステップとなることでしょう。とりわけ、この季節は、しめくくりや門出の時でもあります。ご自分の子どもを誇らしく思ってほしいなと思います。親子でならんで記念の撮影をしている姿には、幸福感が満ちあふれています。

4　「風だより」の実際（6月、9月、1月）

６月の風　VOL.25　1995

人それぞれにこれだけは守っていきたいと思うものがあると思います。それが家族であったり、趣味の時間であったり、大切な絵画であったり、思い出の品であったり、各人の考えによって守りたいものも守ることの意義も違ってくることでしょう。このことを子どもの立場におきかえてみるとどうでしょう。遊びに打ち込める時間と空間、認めてもらえる目など保障してもらいたいものは、そうたくさんはないはずです。集中力のないお子様がいたら、大人の言動は要注意です。子どもの権利は守られていますか？

いまから水たまりで遊ぶ子どもの姿などもみられることでしょうが、子どもの価値観を大切にすることとよい生活習慣を身につけさせることの間でゆれながら子育てをしましょう。

今月の音楽	３歳児のクラス		４歳児のクラス		５歳児のクラス	
曲：モーツアルト アイネ・クライネ・ナハトムジーク 1Mvt：Allegro イ・ムジチ合奏団	ねらい・内容 ・仲良しの友達と好きな遊びを楽しむ ・いろいろな素材にふれて遊ぶ ・梅雨期の小動物に親しむ		ねらい・内容 ・自分で好きな遊びをみつけて遊ぶ ・すすんで友達に関わりながら遊ぶ ・身近な素材を使って楽しく遊ぶ		ねらい・内容 ・日々の生活の中で植物や動物に親しむ ・みんなで協力して作る活動に取り組む ・いろいろな表現を楽しむ	
行事	主な活動	今月のインプット	主な活動	今月のインプット	主な活動	今月のインプット
２日　衣替え ３日 ５日 ６日 ７日　検尿・検便 ８日　〃 ９日 １２日　教育実習開始 １３日 １４日　草取り １５日 １６日 １７日 １８日　父の日 １９日　いものつる植え ２０日 ２１日　保育参観日 ２２日 ２３日 ２６日　誕生会 ２７日　体重測定 ２８日 ２９日 ３０日　幼児教育研究会	好きな遊びをする 土や砂や水で遊ぶ ・山や川をつくる ・だんごをつくる 草花で遊ぶ 小動物と遊ぶ ・草ずもう ・だんごむし、かえる、かたつむりと遊ぶ 室内で遊ぶ ・お父さんの絵を描く ・新聞紙で遊ぶ ちぎる　くっつける 丸める　投げる ・ダンボールで遊ぶ もぐる　くぐる いものつる植え 《粘土遊び　隔週》	音楽 ・4beatマンボ ・東ザンビアのリズム 歌 ・とけいのうた ・かたつむり ・バスごっこ ・マザーグースより 「おやゆびはどこ」 ・わたべうた 絵本 ・ちいさいねこ ・ちいさいももちゃん あめこんこん ・かばくん ・わたしのワンピース 詩 ・らいおん 生活指導 ・遊んだ後の手洗い	好きな遊びをする ・土や砂で遊ぶ 草や虫に興味をもって遊ぶ ・草の根や葉の形 ・かたつむり、ザリガニ、蝶の幼虫などの飼育 いものつる植え 室内で遊ぶ お父さんの絵を描く ・段ボール箱で遊ぶ ・廃材で作る ・お話を聞く ・音楽に合わせて体を動かす ・ごっこ遊びをする 《粘土遊び　隔週》 光に興味をもって遊ぶ ・OHPで映して遊ぶ ・戸外で影遊びをする	音楽 ・おもちゃのシンフォニー ・自然のはぐるま 歌 ・雨ふりくまのこ ・大きなジャンケン ・ほたるこい ・とけいのうた 絵本 ・おたまじゃくしの101ちゃん ・3びきのやぎのがらがらどん ・ローズーのおさんぽ ・まっくろ ネリ お話 ・なぞなぞのすきな女の子 ・せんたくかあちゃん 生活指導 ・当番の仕事 ・遊んだ後の手洗い	音と生活 周囲の音に合わせて 《稲の苗を育てる》 音を探す 雨の音 木の音 その他 命と生活 《じゃが芋パーティー》 いろいろな昆虫を飼う ・蝶の幼虫　他 《田植え》 《粘土遊び　隔週》 音を作ってみる ・雨の音を聞く ・木の音を聞く 《芋のつるを植える》 音を感じる ・音のスペースを作る ・音の中で遊ぶ 竹と遊ぶ ・竹林を見に行く ・竹で遊ぶ	音楽 アコーディオンの名曲 ・パリの橋 ・夜のロマンス ・ナポリのそよ風　他 歌 ・雨ふりくまのこ ・ほたる　他 絵本 ・じごくのそうべえ ・いろいろへんないろのはじまり ・ことばあそびうた ・おおきな木がほしい お話 ・ねずみじょうど 詩 ・おおきくなあれ　坂田寛夫 生活指導 ・手洗いの励行 ・食後のうがい

９月の風　VOL.27　1995

子どもとの生活の中で夢見るようなまじめな表情にであったことがありますか。子どもが何かをみつめている時、そのきらきら輝く瞳で見つめているのは、ずっと先のどこか遠い［向こう側］の世界のようにも思えますし、あるいは自分自身の内側のずっと［奥］の世界というような気もします。毎日のお母さんがつくる食事、お父さんやお母さんが昔読んで好きだった絵本や子どもの頃覚えた歌を知ること、おじいちゃん・おばあちゃんの昔語り、大きい子が教えてくれる遊び、そんな細々としたことが、いつの間にか世代から世代へと伝えられていって、一人一人の子どもの「内側の世界」になっていくのかもしれません。あの何かを見つめるまなざしの深さもこんなところから生まれてくるのではないでしょうか。今、親がしてあげることが将来の子どもの生き方を決めているとしたら毎日をおろそかにはできません。

今月の音楽	３歳児のクラス		４歳児のクラス		５歳児のクラス	
ﾖﾊﾝ・ｾﾊﾞｽﾃｨｱﾝ・ﾊﾞｯﾊ ﾌﾞﾗﾝﾃﾞﾝﾌﾞﾙｸﾞ協奏曲 第5番　ﾄ長調　1Mvt ｱｶﾃﾞﾐｰ室内管弦楽団	ねらい・内容 ・いろいろな遊びに参加し､気の合った友達と遊ぶことを楽しむ ・のびのびと身体を動かして遊ぶ		ねらい・内容 ・自分の考えを積極的に表現する ・いろいろな友達と関わって遊ぶ ・体を動かして遊ぶことを喜んでする		ねらい・内容 ・戸外での運動遊びに意欲的に取り組む ・夏から秋への自然の変化に興味をもつ ・はがき作りに興味をもって参加する ・自由なリズム表現を楽しむ	
行事	主な活動	今月のインプット	主な活動	今月のインプット	主な活動	今月のインプット
１日　2学期が始まる会 ２日　親子で草とり ４日 ５日 ６日　身体測定 ７日　〃　お弁当開始 ８日 １１日 １２日 １３日 １４日 １５日　敬老の日 １６日 １８日 １９日 ２０日 ２１日 ２２日　午前中保育 ２３日　運動会 ２６日 ２７日　誕生会 ２８日 ２９日 ３０日	好きな遊びをする 戸外で遊ぶ ・ﾊﾞｯﾀやｺｵﾛｷﾞを捕まえる ・草花を摘む ﾘｽﾞﾑにのって身体を動かす いろいろな運動をする ・歩く　・跳ぶ ・走る　・投げる ・体操をする ・ﾀﾞﾝｽをする 祖父母にはがきを書く 《粘土　隔週》 運動会に参加する 散歩に行く ・木に登る ・石ころを拾う 絵を描く	音楽 ・ｷｭｰﾊﾞのﾘｽﾞﾑ(ﾊﾝﾊﾞ) ・大空高く 歌 ・とんぼのめがね ・こぶたぬきつねこ ・わらべうた (くまさんくまさん) ・さんぽ 絵本 ・ふんふん　なんだかいいにおい ・ぐるんぱのようちえん ・ぐりとぐら 詩 ・らいおん 生活指導 ・衣服の着脱 ・汗の始末	草取りをする 色や光に興味をもって遊ぶ ・しゃぼんだま ・色めがね 運動遊びをする ・ﾘｽﾞﾑにあわせて ・ﾀﾞﾝｽをする ・体操をする 作ったり描いたりする ・葉書を作る ・手紙を書く ・廃材で作る 祖父母にはがきを書く 《粘土で遊ぶ　隔週》 運動会に参加する 散歩に行く ・石などを集める ・虫とりをする ・絵を描く	音楽 ・愛の喜び　ｸﾗｲｽﾗｰ ・口笛吹きと犬　ﾌﾞﾗｲﾔｰ 歌 ・とんぼのめがね ・うんどうかい ・こおろぎ ・ｱｲｱｲ 絵本 ・しゃぼんだま ・ｱﾝｶﾞｽとあひる ・おかあさんだいすき ・きつねとねずみ お話 ・おしたくできましたか ・ﾄｳﾓﾛｺｼ泥棒 生活指導 ・戸外での着帽 ・汗の始末	2学期が始まる会をする 草取りを手伝う 牛乳ﾊﾟｯｸではがき作りをする 運動遊びをする ・かけっこをする ・ｹﾞｰﾑをする ・ﾘｽﾞﾑ表現をする ・体操をする 運動会に参加する 散歩に行く ・秋の気配を感じる ・秋を描く ・秋を集める (虫とり　草花摘み　等) 《粘土　週1回》 音と生活 ・秋の虫を飼う ・竹で楽器を作る	音楽 ・ﾎﾞﾘﾈｼｱの民族音楽 ・ｶﾘﾌﾞ海の音楽 歌 ・こおろぎ ・ｻﾓｱ島の歌 ・ｱｲｱｲ 「ﾏｻﾞｰｸﾞｰｽ」より ・あついまめのおかゆ 絵本 ・ｴﾙﾏｰのぼうけん ・やまんばのにしき ・おばけのひっこし ・はなののびるおうさま ・へびのｸﾘｸﾀｰ　他 詩 ・なみとかいがら 生活指導 ・汗の始末 ・協力の態度

１月の風　VOL.31　1996

新しい年を迎えましたが、羽根つき、こままわし、かるたとり、すごろく、福笑い、凧あげなどお正月の遊びをお子様とご一緒に楽しまれましたでしょうか。日本は、四季のある大変美しい国です。その四季とともにあるのがいろいろな行事です。近年、伝統的な行事や習慣がだんだんなくなる傾向にありますが、それは“日本人のこころ”を失うことにもつながることでしょう。日本のよさを次代に伝えることは我々の大切な仕事です。

幼児期に重要なことは、どんなことを教えるかではなく、どんな体験をさせるかについて考えてあげるのが大人の責任のような気がします。この辺で今一度、日本の行事、ふるさとの行事、家庭の行事や習慣を見直してみましょう。家庭や幼稚園での幼児体験は、その子の一生が豊かになるかどうかを左右することをこころして毎日を生活したいものです。そんな生活のなかで、お年寄りも子どももそれぞれのよさが発揮でき、認め合えたらいいですね。

今月の音楽	３歳児のクラス		４歳児のクラス		５歳児のクラス	
ﾖﾊﾝ・ｾﾊﾞｽﾃｨｱﾝ・ﾊﾞｯﾊ 管弦楽組曲 第2番 ﾛ短調 BWV1067 ｱｶﾃﾞﾐｰ室内管弦楽団	ねらい・内容 ・友達と一緒にお正月の遊びを楽しむ ・霜、氷、雪など冬の自然に触れながら楽しく遊ぶ ・自分の感じたことや気づいたことを話したり、絵にかいたりする		ねらい・内容 ・お正月の遊びをみんなで楽しむ ・いろいろな材料で作ったり描いたりする楽しみを味わう ・冬の自然に興味をもつ		ねらい・内容 ・自分の思いを絵やお話しなどに表現してみる ・冬の自然に関心をもつ	
行事	主な活動	今月のインプット	主な活動	今月のインプット	主な活動	今月のインプット
８日　学期始めの会 ９日　身体測定 １０日　〃 １１日　お弁当開始 １２日 １５日　成人の日 １６日 １７日　誕生会 １８日 １９日 ２０日 ２２日 ２３日　入園準備説明会 ２４日　保育参観日 ２５日 ２６日 ２９日 ３０日 ３１日	学期始めの会に参加する 好きな遊びをする お正月の遊びをする ・かるた　はねつきなど 《粘土　隔週》 絵を描く ・墨　・ｸﾚﾊﾟｽ ・絵の具　・鉛筆など 廃材で作る ・ﾛﾎﾞｯﾄ　・おもちゃなど 版画をする ・スチレン版に描く ・刷る	音楽 ・ﾗﾊﾞｽ 歌 ・雪 ・ふしぎなﾎﾟｹｯﾄ ・わらべうた 通りゃんせ ずいずいずっころばし 絵本 ・ﾍﾟﾄｶｰのﾋﾟｰすけ ・ゆきのひのゆうびんやさん ・てぶくろ 詩 ・たんぽぽ　ぽ （さかたひろお） 生活指導 ・手洗い、うがいの励行	学期始めの会に参加する お正月の遊びをする ・かるた　・はねつき ・こま　《こまつくり》 絵を描く ・鉛筆 ・墨 ・絵の具 ・ｺﾝﾃ ・ﾘｷﾃｯｸｽ　他 ことば遊び ・かぞえうた ・詩 廃材で作る ・乗り物　・おもちゃ ・楽器　他 《粘土　隔週》 版画をする ・スチレン版に絵をかく ・ｶﾚﾝﾀﾞｰに刷る	楽器 ・ｽｹｰﾀｰﾜﾙﾂ ・世界の民謡(ﾄﾙｺ・ｲﾝﾄﾞ) 歌 ・お正月さんがいらしたぞ ・雪の小ぼうず ・わらべうた 絵本 ・かぞえうたのほん ・しりたがりのふくろうぼうや ・ゆきのひのゆうびんやさん ・もりのともだち お話 ・黒いきこりと白いきこり 詩 ・こなゆきこんこ ・ゆげのあさ 生活指導 ・手洗い、うがいの励行	お正月の遊びをする ・かるたとり　・はねつき ・ふくわらい　・こままわし ・すごろく 絵を描く ・経験したこと ・想像して ・観察して 命と生活 ・新米を食べる ・野鳥の観察 《英語で遊ぶ　週1回》 《粘土　隔週》 版画をする ・スチレン版に描く ・版を刷る 《冬の散策》 山口大学附属幼稚園を訪問 油絵を描く	音楽 ・ﾏｻﾞｰｸﾞｰｽとあそぼうよ ・ﾌｫﾙｸﾛｰﾚから 歌 ・雪 ・すうじのうた ・世界中のこどもたちが 絵本 ・ﾛﾎﾞｯﾄｶﾞﾆｰ ・はたらきものの じょせつしゃけいてぃー ・ｴﾙﾏｰのぼうけん お話 ・世界の名作童話 ｼﾞｬｯｸと豆の木 生活指導 ・手洗い、うがいの励行

５　まとめ

カリキュラムはそれぞれの教育現場や保育現場の実情に合わせて計画され、実施されるものである。従って、その編成にあたってはいろいろな条件や内容が盛り込まれることとなる。都市部の園か、地方の園か、自然の豊富な環境にあるのか、そうでないのか、また、子どもたちはどんな家庭環境から通園しているのか等々である。しかし、おおよそ共通する内容としては、教育目的・目標、子どもの実態・活動、文化内容であろう。

この実践で述べている「風だより」では、まず一つ目の教育目的・目標については、各号の「風だより」の冒頭で、子どもたちをどのような姿勢で育て、どのような方向に伸ばしていくかを呼びかけ、園と家庭とが共通認識をしようとした。

二つ目の子どもの実態・活動については、年齢別のねらい・内容と主な活動を図式化して示し、活動の流れに見通しがもてるようにした。

三つ目の文化内容については、音楽（鑑賞曲・身体表現・歌）、絵本、お話、詩、生活指導を明記している。子どもが表現するには文化のインプットが必要という考えのもと、年齢別に今月のインプットとして示したものである。

意図したカリキュラムに新しい出来事を加えて、実際に実施したカリキュラムが存在する。そして、達成されたカリキュラムを基に次のカリキュラムを考えていく。その繰り返しで、幼稚園における教育課程や保育所における保育課程が編成される。

幼児教育は、幼児のさながらの生活を大事にし、幼児の生活や遊びの展開にそって環境を構成し、幼児自らが発達に必要な経験を積み重ねていくことを基本としている。すなわち、幼児の発達や生活を核にして教育を組み立てていくことになる。

その意味においても、「風だより」によってカリキュラムを保護者につなぐという試みは、幼児教育において有意義なものになったといえる。

[引用文献]

1) 国広勝代，石川正一，磯部弥生；「風だより」，山口女子大学附属幼稚園，1993.4 ～1997.3